

ICT管理ツールを活用した効率的な大規模水田経営 鍋八農産 ～トヨタ自動車と連携した効率的な作業体制の構築と経営の多角化による 先進的な水田ビジネスモデルを展開～

検校哲也（海部農林水産事務所農業改良普及課）

【平成28年12月15日掲載】

【要約】

有限会社鍋八農産は、水稻、小麦、大豆を計178ha作付けする県内屈指の大規模水田経営体である。広域に分散した水田の管理作業における課題を解決するため、トヨタ自動車株式会社と共同でICT管理ツール「豊作計画」を開発し、作業の進行管理に役立てている。

また、加工品製造直売所「やぎさんちの台所」では、餅や赤飯、米粉ピザやシフォンケーキなど多彩な商品を展開、販売している。さらに、「おにぎり商店きはち」では、自社生産米やこれを使ったおにぎりを販売するなど経営の多角化による総合ビジネスを展開している。女性の経営参画も進み、ビジネスサイズの拡大に貢献している。

1 地域の概要

有限会社鍋八農産（以下「鍋八農産」という。）のある弥富市は、愛知県の西南端に位置し、木曽川を挟んで三重県に接している。名古屋市の西側20km圏内に位置し、都市部、農村部、海岸部をあわせ持つ地域となっている。全域が海拔ゼロメートル以下の極めて平坦な地形であり、砂土の割合が高く、肥沃度が低い土壌が多い地域である。

2 鍋八農産の取組の経過と経営の現況

鍋八農産は、先代社長の八木賢治氏が昭和37年に鍋田干拓に入植したのが始まりで、水稻の作業受託で経営を拡大してきた。その後、経営受託の拡大、小麦や大豆など転作作物の導入などに地域でもいち早く取り組み、企業的な経営に発展し、平成10年に法人化した。賢治氏の後継者である輝治氏は平成18年に代表取締役役に就任し、先代の基盤を盤石にしつつ、米の高付加価値化に取り組むなど、新たなビジネスモデルを目指してきた。

平成26年産の作付面積は水稻127ha、小麦30ha、大豆21haの計178haであり、これに加え耕起・代かき98ha、田植え123ha、収穫123haを作業受託しており、愛知県内屈指の大規模水田経営体である。

3 経営の特色

（1）トヨタ自動車と連携した効率的な作業体制の実現

平成22年、輝治氏が異業者交流の場で、広域に分散した水田の作業管理の課題について話をしたことがきっかけとなり、トヨタ自動車株式会社（以下、「トヨタ自動車」という。）と共同で効率的な作業管理手法の開発に取り組んだ。



「豊作計画」を操作する八木社長

その結果、ICTを活用した管理ツール「豊作計画」を共同で開発した。「豊作計画」を活用して、1日の作業計画をクラウドサービスで従業員に割り振り、従業員は各自が所有する端末（スマートフォン）で作業指示やほ場位置図を確認し、作業にあたる。従業員が作業の開始と終了を現場で端末に入力することでリアルタイムに作業内容が報告でき、作業の進行管理に役立てている。これによって、管理作業を適確に行うことができるようになった。

また、それまでは農機具や資材等が乱雑に置いてあり、作業に支障を来すこともあったが、トヨタ生産方式（「見える化」、「ジャストインタイム」）を採用し、農機具ごとの収納場所の明確化、ネームプレートの設置、白線枠の表示など整理整頓の徹底、乾燥機の稼働状況に合わせた収穫の実施などにより、作業効率の向上を実現した。これらの効果もあり、従業員1人あたり約23haと非常に大規模な水田を管理することが可能となった。

（2）経営の多角化による総合ビジネスの展開と女性の活躍

平成15年に加工品製造直売所「やぎさんちの台所」を開店した。自社生産米を利用して、餅や赤飯、米粉ピザやシフォンケーキなど多彩な商品展開を行っており、スーパーやJA直売所などへ販売している。また、平成27年には弥富駅前に「おにぎり商店きはち」をオープンし、自社生産米やこれを使ったおにぎりを販売している。これらの取組には、賢治氏の妻フミエさんや輝治氏の妻淳子さんが大きく関わっており、女性の経営参画がビジネスサイズの拡大に貢献している。



「おにぎり商店きはち」の外観

4 普及性と今後の発展方向

鍋八農産は、作業の効率化による高い生産性と経営の多角化を実現し、先進的な大規模水田作の経営モデルと言える。これからも「地元で信頼され、安心して任せられる作業・経営の実践」を継続しつつ、美味しさ、安全・安心、やりがい、さらなる効率化などにより経営内容の充実、質の向上を追求していく。特に、6次産業化をさらに充実させ、付加価値を高めた販売を拡大する経営を目指す。



鍋八農産、全員集合！